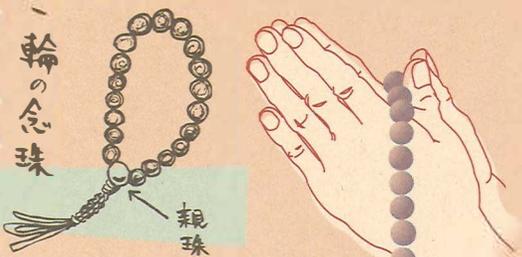


ねんじゆ
「念珠」



・親珠を下にして
両手にかけます



・二重にして、親珠を
親指のところではさ
み、房は左側前より
にたらしませ

普段は左手に持つが、
合掌には、左手首にかけます。
両手にかけます。

念珠も持たないで合掌礼拝する
人々に蓮如上人は
「仏をば手づかみにこそせられたり」
といましています。

イラストは解説上、
実物より変更、削
除した部分ござ
います。

大切にあつかい、床や畳に、
直に置くようなことはしません。

真宗大谷派
名古屋別院



<http://www.ohigashi.net/>

〒 460-0016
名古屋市中央区橘2-8-55
☎ 052 (321) 9201
☎ 052 (321) 3184

このリーフレットは、
環境に配慮したインク、
用紙を使用し作成しました。

12.5.
5000

しょうい
「お精入れ」

しょうぬ
「お精抜き」

って
どういうこと
ですか？

真実の教えに出遇う
であ

2

『お精入れ』『お精抜き』
ってどういうことですか？」

中村 薫

本来浄土真宗では、「お精入れ」とか「お精抜き」という言葉は使いません。しかし、真宗門徒の多くは、仏壇（お内仏）の購入、洗濯、あるいは新しいお墓を建てたり、また法名を刻むときなど「お精入れ」「お精抜き」と称して、僧侶に「お勤め」していただいているかもしれません。ただ、今は、その「お勤め」の善し悪しを言うのではありません。むしろ、「お精入れ」「お精抜き」と称して行っていることが、本当に仏事となっているかどうかあらためて問い直すべきでしょう。

一般社会では「仏作って魂入れず」の感覚で、「精」を見ているかもしれません。ただ人々は、僧侶に「お勤め」し

てもらって、本当に「精」が入ったり抜けたりすると信じているのでしょうか。「お勤め」している僧侶の一人として、そんな器用なことはできません。

ではなぜ「お勤め」するのでしょうか。たとえば、私たちは、新しい仏壇を前にすれば、皆で初めてお参りする法要を「お入仏のお勤め」と言い、お敬い報恩の心でいたします。また仏壇を洗濯するとき、しばらくお参りできません



のでお礼報謝の心で「お別れのお勤め」をいたします。ですから、あえて「お精入れ」「お精抜き」という言葉遣いにはこだわっています。たとえ「お勤め」という行為は同じであっても、当事者にとって、恐れ崇りから逃れるため、あるいは全く意味不明のまま習慣で行っているのとは意味が違います。

浄土真宗の仏事は、本当の教えに出会い、浄穢善悪に執らわれている私に気づくことが大切です。ですから浄土真宗の教えは、どこまでも「仏恩報謝」のお念仏に生きることが主目的ですので、仏事をご縁として『正信偈』を僧俗共に「お勤め」するのがよいと思います。（なかむら かおる 同朋大学教授）

- ※ 「お“生”入れ」「お“生”抜き」などの表現が使われる場合もあります。
- ※ 真宗では「仏壇」を「お内仏」と言います。